

SVC062-06

会場: 201B

時間: 5月23日10:15-10:30

浅間黒斑火山仙人溶岩グループにみられるアグルチネート

Agglutinate in the Sennin lava group of Asama-Kurofu volcano

高橋 正樹^{1*}, 安井 真也¹, 間瀬口 輝浩¹, 金丸 龍夫¹

Masaki Takahashi^{1*}, Maya Yasui¹, Mitsuhiro Maseguchi¹, Tatsuo Kanamaru¹

¹日本大学文理学部

¹College of Humanities and Sciences

仙人溶岩グループは、浅間黒斑火山末期の噴出物であり、シリカ量が61～64重量%の珪質輝石安山岩からなる。仙人溶岩グループの活動時期は、板鼻褐色降下軽石（As-BP）の活動時期とほぼ同時期で、3万年前頃から始まり、黒斑火山が大崩壊して現在の大規模な馬蹄型崩壊壁を形成した2万6千年前頃まで続いたものと考えられる。仙人溶岩グループは、馬蹄型崩壊壁では、蛇骨岳付近に少しと、北方の仙人岩付近の尾根の上部付近にまとまった露出をみせる。仙人岩付近では、黒斑牙・剣ヶ峰溶岩グループを不整合に覆って、ユニットAからユニットMまで全部で13枚以上のユニットが高さ40m以上の崖に確認できる。最上位の尾根上には厚さ4mの溶結した基質に乏しい赤色酸化した本質岩片からなる凝灰角礫岩および降下軽石からなるユニットBの上にユニットAが重なる。ユニットAは、下位の厚さ20cmの降下軽石層から、厚さ30cmの潰れた軽石からなる降下軽石層、厚さ1.5m以上の完全に溶結したアグルチネートへと連続的に移化する。ユニットBの下位には、厚さ3mの赤色基質中に黒色レンズが発達した強く溶結した溶岩状アグルチネートからなるユニットCが、その下位には厚さ3～4m程度の6枚の溶結した火砕岩と5枚の強く溶結した溶岩状アグルチネートとが交互に出現する。仙人溶岩グループの溶結火砕岩～アグルチネートの岩相は、浅間前掛火山の前掛火口壁や上部斜面、さらには釜山火口内にみられる溶結火砕岩～アグルチネートとよく類似する。これらはプリニー式ないしは準プリニー式噴火によって形成されたものであり、黒斑火山の噴出様式は、牙・剣ヶ峰溶岩グループおよび三ッ尾根溶岩グループを形成した比較的穏やかなストロンボリ式～ブルカノ式噴火から、仙人溶岩グループの爆発的なものへと変化したと考えられる。

キーワード: 浅間火山, 黒斑火山, 安山岩, 溶結構造, 降下軽石, アグルチネート

Keywords: Asama volcano, Kurofu volcano, andesite, welded structure, air-fall pumice, agglutinate